

## アクアフィリング®を用いた豊胸術の中期的臨床経過と問題点

### 鎌倉 達郎

Tatsuro Kamakura

聖心美容クリニック

標準的な豊胸術の術式にはインプラントを用いた方法と自家脂肪組織を用いた方法がある。豊胸術を希望する患者の中には、インプラントを希望せず、皮下脂肪組織量が不十分な症例も多く、豊胸術を断念せざるを得なかった。近年ヒアルロン酸を用いた豊胸術が登場し、これらの患者に選択肢を与えることとなったが、効果持続期間が短く、硬い腫瘍形成を起こすことも少なくない。1990年後半から2000年に入ってから数年間ポリアクリルアミド製剤による豊胸術が中国を中心として普及したが多くの合併症を誘発した。2000年代後半よりアクアフィリングはヨーロッパでの承認後、韓国、日本、マレーシアなどアジア諸国で使用されているが、アクアフィリングはポリアクリルアミドとは異なるものの化学構造的な特性を理解するには専門的な知識を必要とし、この知識を理解できないものにとっては類似の成分と認識し、警鐘を鳴らしているのが現状である。我々は2015年2月よりアクアフィリングによる豊胸術を開始し現在3年を経過している。現時点では他の豊胸術に比べて合併症が有意に高いという結果には至っていないが、我々は新しい注入剤という認識の元、合併症や発がん性の可能性などのネガティブインフォメーションを提供しながらインフォームドコンセントを行い、引き続き慎重に経過観察を行っている。